

**背景と課題** 多言語コミュニケーションへのニーズと期待が高まる中、国際的にもその重要性は認識され、特にディープラーニングの適用によって自動翻訳技術の精度が劇的に向上して以来、各国の研究機関は熾烈な研究開発競争の中にあり、さらなる翻訳精度やレスポンス性能の向上が必要。

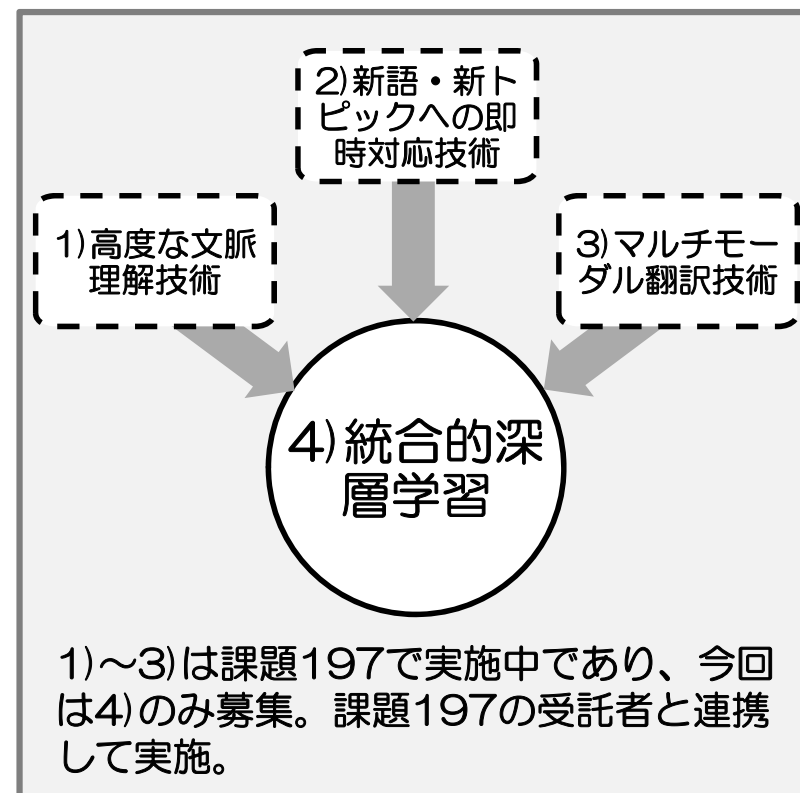
**研究開発の目的** 音声翻訳技術の高度化を進めるため、NICTが実施する自主研究と連携し、ディープラーニングの適用により、文脈処理やマルチモーダル等も取り込んだ長文翻訳技術を開発。

**研究開発の概要** 次のうち2つ以上の技術を組み合わせ、統合的深層学習により翻訳技術を高精度化する研究開発を実施。ただし、省略を補完する技術は必須として年度計画を提案すること。

- 1) 高度な文脈理解技術（インテリジェント翻訳技術）
  - ① 曖昧な言葉を確認して翻訳する技術
  - ② 文脈の認識や省略の補完等により適切に翻訳する技術
- 2) 新語・新トピックへの即時対応技術（ニュース対応翻訳技術）
  - ① 時事ネタなどの新しい単語にもすぐに対応可能とする技術
  - ② ニュースを適切に翻訳・要約して出力する技術
- 3) マルチモーダル翻訳技術
  - ① 周囲状況や表情・感情を推定し相応しい翻訳を行う技術
  - ② 動画または静止画を認識しキャプションを相応しく翻訳する技術

1)~3)の技術を組み合わせ

4) 統合的深層学習の研究開発



1)~3)は課題197で実施中であり、今回は4)のみ募集。課題197の受託者と連携して実施。